

伝えよう 知ってもらおう 岐阜国道

平成25年 3月 13日
国土交通省中部地方整備局
岐阜国道事務所

美濃加茂バイパス水質モニタリング結果を報告 ～第4回岐阜国道建設発生土処理対策委員会を開催～

1. 概要

岐阜国道事務所で実施している国道41号「美濃加茂バイパス事業」においては、環境基準を超過する建設発生土（自然由来）について、学識経験者の提言に基づき、事業地内での有効利用（封入処理）を行ってきました。今回第4回委員会を開催し、封入処理1年経過後の水質モニタリング結果について報告を行います。

2. 第4回岐阜国道建設発生土処理対策委員会の開催内容

日 時：平成25年3月15日（金） 10:00～12:00

場 所：国土交通省 岐阜国道事務所 南棟大会議室
岐阜市茜部本郷1-36-1

検討内容：要対策土封入処理後の水質モニタリング実施結果等について

報道取材：取材撮影については、冒頭の委員長挨拶までとさせていただきます。

なお検討内容（概要）は、後日岐阜県政記者クラブにお知らせします。

3. 資料 別紙

4. 解禁 指定なし

5. 配布先 岐阜県政記者クラブ

6. 問合せ先

岐阜国道事務所 副所長 なかじま ひろし 中嶋 弘
岐阜国道事務所 工務課長 ふじやま かずお 藤山 一夫

Tel. 058-271-9811（代表） Fax. 058-271-3175（代表）

※同様の内容は取締役終了後
右記HP「記者発表一覧」
でご覧いただけます

岐阜国道事務所 岐阜市茜部本郷1-36-1
HPぎふこくナビ <http://www.cbr.mlit.go.jp/gifu/>

道路の異常を発見したら・・・道路緊急ダイヤル#9910（24時間受付）

岐阜国道建設発生土処理対策委員会について

1. 美濃加茂バイパスの仮置き工事残土の処理検討について

岐阜国道事務所で開催している国道41号「美濃加茂バイパス事業」は、黄鉄鉱を含む土質を通過する事が設計段階から確認されていたことから、工事の施工及び掘削土の処理については土壌試験等を行いながら適切な対応を行ってまいりました。

平成22年3月に事業地内に仮置きしてある工事残土(約13千 m^3)を処理するにあたり土壌試験を実施したところ、土壌環境基準値を超過するカドミウム等(自然由来)が検出されたことから工事残土の処理等について、「岐阜国道建設発生土処理対策委員会(以下委員会)」で検討を行っているものです。(別紙-1)

2. 岐阜国道建設発生土処理対策委員会について

委員会は、国土交通省岐阜国道事務所が発注する建設工事において発生する環境基準を超える有害物質を含む建設発生土の対策工法等を検討することを目的とし平成22年6月8日に設立しました。

<委員構成>

所 属 等	氏 名
岐阜大学工学部社会基盤工学科	小嶋 智 教授
岐阜大学工学部社会基盤工学科	佐藤 健 教授
岐阜大学総合情報メディアセンター	篠田 成郎 教授
(財)岐阜県環境管理技術センター	寺尾 宏 技術主幹
岐阜薬科大学	永瀬 久光 教授

*五十音順

3. 委員会の検討経緯

○第1回委員会(平成22年6月8日開催)

工事残土の処理は発生場所の近傍において二重遮水工封じ込め(管理型構造)が望ましいとの提案がされました。(別紙-2)

○第2回委員会(平成22年11月25日開催)

第1回の提案に基づき二重遮水工封じ込めにて、工事残土を処理する事に決定したため、工事残土の処理に関わる水質及び土壌のモニタリング方針を決定しました。(別紙-3)

○第3回委員会(平成24年3月16日開催)

二重遮水工封じ込め工事が終わり、封入箇所周辺では、2年間のモニタリング、仮置きしてあった箇所では1年間のモニタリング方針を決定しました。(別紙-4)

*委員会の経緯については、岐阜国道事務所ホームページにて公表しています。

岐阜国道事務所ホームページ <http://www.cbr.mlit.go.jp/gifu/index.html>

4. 第4回委員会について

第4回委員会では、工事残土の封入処理が完了後1年が経過したため、第3回委員会で決定した水質モニタリング結果等について報告する予定である。

平成22年 5月 6日
国土交通省中部地方整備局
岐阜国道事務所

国道41号美濃加茂バイパス事業の工事 残土における土壌試験結果について

1 概要

岐阜国道事務所では実施している国道41号「美濃加茂バイパス事業」は、黄鉄鉱^{※1}を含む土質を通過する事が設計段階から確認されていたことから、工事の施工及び掘削土の処理については土壌試験等を行いながら適切な対応を行ってきたところです。

今般、事業地内に仮置きしてある工事残土（約1.3千m³）を処理するにあたり土壌試験を実施したところ、土壌環境基準値を超過するカドミウム等（自然由来）が検出されたことから工事残土の処理については、「岐阜県建設発生土管理基準」を踏まえ学識経験者と処理方法等について検討を開始します。

※1：黄鉄鉱は酸素と水と接触することでイオウ成分が溶出して強酸性水を生じさせるとともに、この強酸性水の影響で岩石中に含有している重金属類が溶出し、周辺環境に影響を及ぼすことが懸念される硫化鉱物です。

2 検出場所及び状況

検出場所：美濃加茂バイパス事業地内仮置き残土【別紙参照】
（加茂郡川辺町中川辺周辺）

検出状況：土壌環境基準値を超過している特定有害物質

特定有害物質名	基準値(mg/L)	検出値(mg/L)
カドミウム	0.010	0.011~0.032
鉛	0.010	0.018
セレン	0.010	0.011~0.029

3 影響・対策等

- ・仮置き残土は、ブルーシートにて雨水が浸入しないように養生しています。
- ・仮置き残土付近（水路・沢・池など）の水質モニタリングを継続的に実施しています。
- ・現在のところ周辺環境への影響をおよぼす特定有害物質は検出されていません。
- ・5月中旬に学識経験者による委員会を立ち上げ処理方法について検討を開始する予定です。

4 解禁 指定なし

5 配布先 岐阜県政記者クラブ

6 問合せ先 国土交通省 中部地方整備局 岐阜国道事務所

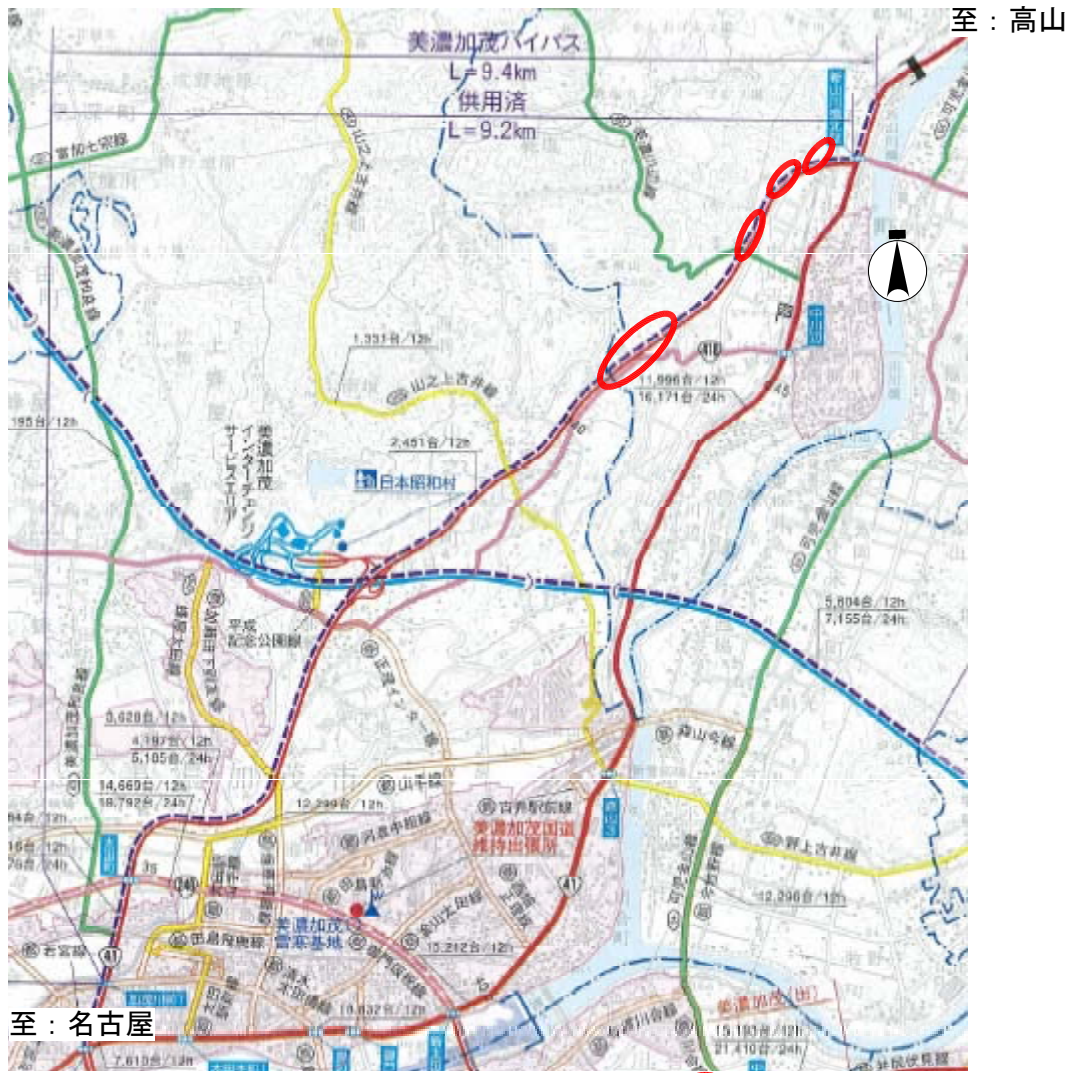
副所長 なかだいら ひろふみ 中平 浩文
電話 058-271-9811

工務課長 あきた おさむ 秋田 修
電話 058-271-9814

岐阜国道事務所 岐阜市茜部本郷1-36-1
HPさくらナビ <http://www.cbr.mlit.go.jp/gifu/>

【位置図】

【別紙】

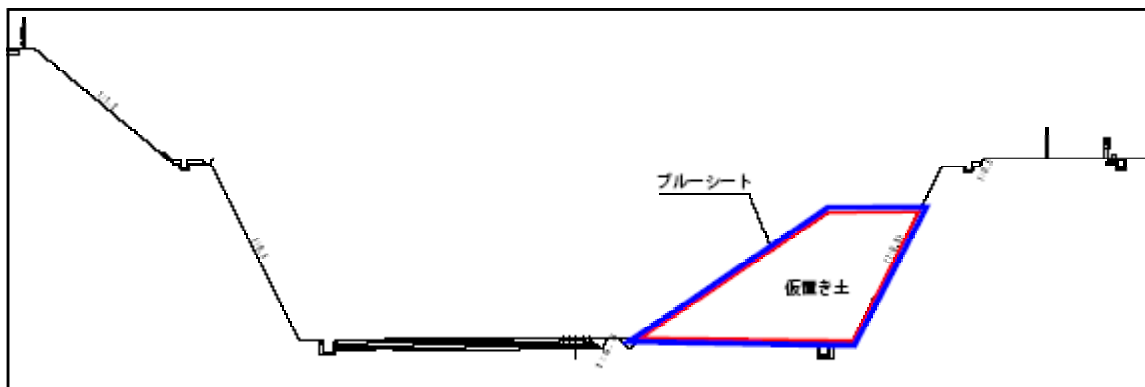


○ 仮置き残土 箇所

仮置き残土状況（一事例）



断面図（一事例）



岐阜国道建設発生土処理対策委員会の検討結果について

1 概要

岐阜国道事務所で実施している国道41号「美濃加茂バイパス事業」の、事業地内に仮置きしてある掘削残土より土壤環境基準値を超過するカドミウム等（自然由来）が検出された件について、残土の処理方法等の検討を行うため、平成22年6月8日に岐阜国道建設発生土処理対策委員会を開催しました。

2 委員会名簿

所	属	氏	名
岐阜大学	工学部	小嶋	智 教授
岐阜大学	工学部	佐藤	健 教授
岐阜大学	総合情報メディアセンター	篠田	成郎 教授
(財)岐阜県	環境管理技術センター	寺尾	宏 技術主幹
岐阜薬科大学	薬学部	永瀬	久光 教授

* 五十音順

3 開催場所等

日 時：平成22年 6月 8日（火） 16:00～18:00

場 所：国土交通省 岐阜国道事務所 南棟大会議室
岐阜市茜部本郷1-36-1

4 委員会の検討結果

- ・美濃加茂バイパスの掘削残土より検出されたカドミウム等は、掘削土砂に含まれた自然由来の黄鉄鉱が酸化し土壤中の重金属等を溶出して発生したものと推測する。
- ・周辺の水質調査において電気伝導度の変化が大きいものについては、詳細調査を実施して要因物質を特定する必要がある。
- ・美濃加茂バイパスに仮置きしてある掘削残土については、土砂有効利用及び周辺環境への影響を考慮して発生場所の近傍で処理を実施すべきである。
- ・二重遮水工封じ込め（管理型構造）については地元等との調整により埋立地が選定できた場合、環境面及びコスト面において最も推奨出来る処分方法である。

平成22年12月9日
国土交通省中部地方整備局
岐阜国道事務所

第2回 岐阜国道建設発生土処理対策 委員会の検討について

1 概要

岐阜国道事務所で実施している国道41号「美濃加茂バイパス事業」において事業地内で仮置きしてある工事残土から土壤環境基準値を超過するカドミウム等（自然由来）が検出されました。このため、残土処理の対策工法等を検討することを目的に本年6月8日に委員会を設立し検討を進めてきており、残土処理における水質等のモニタリング方針を検討するため、平成22年11月25日に第2回委員会を開催しました。

以下、委員会の検討内容についてお知らせします。

2 検討結果

環境基準を超過した残土の処理に関わる水質及び土壌のモニタリング方針を検討しました。

＜土砂封入箇所の水質モニタリング方針（測定期間、測定箇所、水質試験項目）＞
土砂封入箇所の水質モニタリングは、施工前・施工中・施工後（2年間）を実施して水質の安全性を確認します。

＜仮置き土砂撤去後の土壌モニタリング方針（測定箇所、土壌試験項目）＞
仮置き土砂撤去後の地盤面について土壌試験を実施し、地盤汚染の有無を確認します。

＜仮置き土砂周辺の水質モニタリング方針（測定期間、測定箇所、水質試験項目）＞
仮置き土砂周辺の水質モニタリングは、施工前・施工中・施工後（2年間）を実施して水質の安全性を確認します。

3 解禁 指定なし

4 配布先 岐阜県政記者クラブ

5 問合せ先 国土交通省 中部地方整備局 岐阜国道事務所

副所長 なかだいら ひろふみ
中平 浩文
電話 058-271-9811

岐阜国道事務所 岐阜市茜部本郷1-36-1
HPぎふこくナビ <http://www.cbr.mlit.go.jp/gifu/>

伝えよう 知ってもらおう 岐阜国道

平成24年5月10日
国土交通省中部地方整備局
岐阜国道事務所

第3回岐阜国道建設発生土処理対策委員会の検討結果について

(要対策土の封入処理が完了しました！)

1 概要

岐阜国道事務所が実施している国道41号「美濃加茂バイパス事業」において事業地内で仮置きしてある工事残土から土壌環境基準値を超過するカドミウム等（自然由来）が検出されました。このため、残土処理の対策工法等を検討することを目的に委員会を設立して検討を行い、掘削残土の封入処理が完了しました。その完了を受け、第3回委員会（H24.3.16）を開催し、今後継続してモニタリング調査を行っていくことを確認しました。このたび、平成23年度の検討内容がとりまとめられましたので報告します。

2 委員会名簿

所	属	氏名
岐阜大学	工学部	小嶋 智 教授
岐阜大学	工学部	佐藤 健 教授
岐阜大学	総合情報メディアセンター	篠田 成郎 教授
(財)岐阜県環境管理技術センター		寺尾 宏 技術主幹
岐阜薬科大学	薬学部	永瀬 久光 教授

※五十音順

3 委員会の報告及び検討結果

【報告内容】

美濃加茂バイパスで発生した土壌環境基準を超過した掘削土砂は、平成24年3月2日に川辺町旧大洞溜め池において遮水シートでの封入処理が完了しました。

【検討結果】

- 土砂を仮置いていた場所の現地盤から検出した重金属の値は地山由来の可能性が高い。なお、今後近隣の同じ地層等が確認出来る箇所では土壌分析を実施し調査する。
- 地盤面は環境基準を超過していないため特に浸透対策等の対策は必要ないと思われる。
- 仮置き箇所周辺の未処理の掘削法面については、早めに法面保護を実施する。
- 溜め池封入箇所は、工事終了後2年間モニタリングを実施する。
- K沢一2系統は、仮置き土撤去後も数値に変動がないため、1年間モニタリング調査を継続し、観察する。

(参考 別紙)

4 解禁 指定なし

5 資料 添付資料

6 配布先 岐阜県政記者クラブ

7 問合せ先 国土交通省 中部地方整備局 岐阜国道事務所

副所長 なかじま ひろし
中嶋 弘TEL:058-271-9811 (代表)
FAX:058-271-3175

2012 ミナモ
ぎふ清流国体
輝けはばたけ だれもが主役

岐阜国道事務所 岐阜市茜部本郷1-36-1
HPぎふこくナビ <http://www.cbr.mlit.go.jp/gifu/>

道路の異常を発見したら…… 道路緊急ダイヤル#9910 (24時間受付)